

平成27年度

公立大学法人北九州市立大学の業務の実績に関する評価調書

○全体評価調書

○分野別調書

記 入 要 領

北九州市地方独立行政法人評価委員会

平成28年7月

公立大学法人北九州市立大学の平成27年度に係る業務の実績に関する全体評価調書

③ 全体

【全体評価】

○理事長・学長のリーダーシップのもとで、大学運営の全般にわたって努力をしており、中期計画・年度計画を順調に実施し、改善が着実に進んでいると評価できる。なお、大学運営の長期的な展望を明確にし、将来ビジョンを確立して、それに向かって有効な施策を順次展開することを期待したい。

○教育分野では、多種多様な活動を実施し、成果を挙げている。特に語学教育においては、「グローバル人材育成推進事業」等によりその体制が整備されるなど、順調に進捗している。また、就職決定率も平成元年以降最高水準となる98%を達成し、高く評価できる。一方、入学志願者倍率の目標設定のあり方や長年の懸案である大学院定員充足率については、大学の役割も含めて社会状況も考慮した検討が必要である。

○研究分野では、先進的な研究・開発や新しい試みも実施され大いに成果を挙げており、高く評価できる。研究成果の地域社会への還元も積極的に行われており、今後もその成果に期待したい。
また、大型研究費の獲得へ向けた努力は評価できるが、なお国や産業界からの資金獲得に更なる努力が必要である。

○社会貢献分野では、地域共生教育センターやまちなかESDセンター等の活動が活発に行われており、社会貢献に大きな役割を果たしている。また、留学生の派遣・受け入れや国際交流も活発であり、地域全体の国際化に貢献している点や、地域のシンクタンクとしての役割を果たしている点も評価できる。今後、さらに北九州市立大学の個性を活かして、多様な取組みを連携させることにより、人としての深みを持つ人材を育成し、地域の発展につながる活動を推進することを期待する。

○管理、運営分野では大学の戦略に応じた組織の見直しが適時行われ、組織自体も実行力のあるものとなっており、組織の自己評価も有効に機能していることが評価できる。なお、予算方針会議の充実を図るなど財務運営に関する認識を高め、目的積立金・積立金・基金それぞれの性格と用途を明確にする必要がある。

③【全体評価】 ■評価委員が記述(箇条書き)

- 分野別評価の結果や大学の実績を端的に示す指標等を参考にしながら、中期計画の進行状況全体について『評価委員会』による評価(特筆すべき点や遅れている点、その他の意見等を記述)

- ・ 事業の実施状況について(分野別・分野横断的な事項の実施状況等について)
- ・ 業務運営の改善・効率化等について
- ・ 財務状況について
- ・ 法人のマネジメントについて
- ・ 市民への説明責任と透明性の確保について
- ・ 地域貢献を目指した特色ある取り組み等について

公立大学法人北九州市立大学の平成27年度に係る業務の実績に関する分野別・項目別調書

- <中期計画の4つの分野>
- I 教育
 - II 研究
 - III 社会貢献
 - IV 管理運営等

③ 全体(2P)

② 分野別

【分野別評価】

I 教育

5段階評価

B

○ファカルティ・ディベロップメント(FD)の推進等により教育体制は改善・整備され、また、「大学教育再生加速プログラム」に公立大学として唯一採択されるなど学習支援体制も充実している。特に英語教育においては、「グローバル人材育成推進事業」等により成果を挙げている。
 ○「地域共生教育センター」や「まちなかESDセンター」における学生と社会をつなぐ取り組みは、公立大学として地域からの期待に応えるものであり、高く評価できる。
 ○就職支援や地域活動等、大学の特色を活かした優れた教育活動を行っており、就職決定率は平成元年以降最高水準となる98%を達成している。今後もその成果に期待したい。
 ○マネジメント研究科においては、中華ビジネス研究センターの設立を始め、定員以上の入学者を得るなど、諸活動は高く評価されるものである。
 ○地域人材の養成におけるアセスメントについては、学生ボランティア活動など実質的な学びの状況がうまく表現されるような指標の見直しを検討する必要がある。
 ○入試広報活動の努力は評価できるが、志願者数は減少している。入試戦略を改めて見直すとともに、目標値の設定や成果基準を再検討する必要がある。
 ○大学院定員充足率の低迷については、社会情勢や構造的な問題も考慮して原因分析を行い、定員のあり方も含めた戦略の見直しを行う必要がある。

- 大学の自己評価に対する検証結果や特記事項を踏まえ、下記指標に照らして5段階評価
- S: 特筆すべき進行状況(特に認める場合)
- A: 計画どおり(すべてIVまたはIII)
- B: 概ね計画どおり(IVまたはIIIの割合が9割以上)
- C: やや遅れている(IVまたはIIIの割合が9割未満)
- D: 重大な改善事項がある(特に認める場合)

- 項目別の評価を踏まえた『評価委員』による評価(特筆すべき点や遅れている点について記述)

策定済(計画に掲載された内容)

大学による自己評価

評価委員が記入

中期計画	年度計画	進行状況	実施状況等	評価	評価理由及び意見
1 学部・学群教育の充実に関する目標を達成するための措置					
2 ② 教育課程の改善、厳格な成績評価、単位認定 教育目的、学位授与方針の達成に向け、教育課程編成・実施方針を策定し、体系的・順次性を重視した教育課程の改善を行う。あわせてGPA*分布の学部学科間の共有化などによる成績評価・単位認定の適正化を行う。 * GPA制度…客観的な成績評価を行う方法として大学に導入されているもの。一般に授業科目ごとに5段階(本学の場合S、A、B、C、と不合格のD)で成績評価を行い、それぞれ4から0点のグレード・ポイントを付し、この単位当たりの平均値がGPAとなる。	2-2 ② 教育課程の改善、厳格な成績評価、単位認定 学部・学群の年次・学期単位のGPA分布を引き続き整理し、その状況を各学部等に報告し、教員間での共有を促進する。これを受け、各学部等では成績評価・単位認定について検証し、必要に応じて改善を行う。	III	2-2 ② 教育課程の改善、厳格な成績評価、単位認定 学部・学群の年次・学期単位のGPA分布を引き続き整理し、その状況を各学部等に報告し、教員間での共有を促進する。これを受け、各学部等では成績評価・単位認定について検証し、必要に応じて改善を行う。		

① 項目別

■大学が記載済み

- 【年度計画の実施状況を自己評価(4段階評価)】
 中期計画の項目ごとに、当該年度計画の実施状況等を下記指標に照らして大学が自己評価
- <評価指標>
- IV: 年度計画を上回って実施している
 - III: 年度計画を概ね順調に実施している
 - II: 年度計画を十分に実施できていない
 - I: 年度計画を実施していない

■大学が記入済み

- 【年度計画の実施状況等の自己評価(記述式)】
 中期計画の項目ごとに、業務実績、当該年度計画の客観的な進行状況、その判断理由等を大学が記述。(実績報告書と同内容)

- 年度計画の進行状況等を踏まえ、中期計画の項目ごとに、下記指標に照らして4段階評価

- <評価指標>
- IV: 年度計画を上回って実施している
 - III: 年度計画を概ね順調に実施している
 - II: 年度計画を十分に実施できていない
 - I: 年度計画を実施していない

- 大学の自己評価と評価委員の判断が異なる場合は、その理由を記述。
- 判断が同じ場合でも、特筆すべき点があれば、その旨を記述。